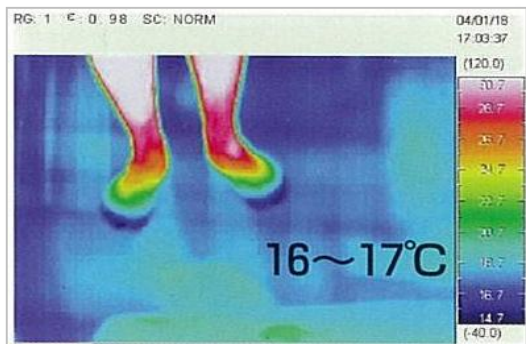


今年の冬は
断熱診断をしよう

温度差のある家は危険！

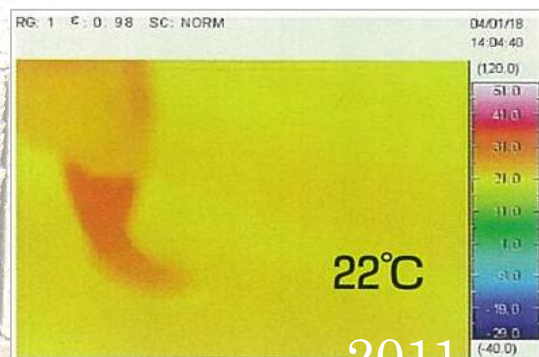
《5年経ったら断熱診断しよう》

冬のリビングの床・一般住宅 (グラスウール100mm)



26°Cで暖房をしていますが、床面の温度が16°C~17°Cで、室温を10°Cも下回っている。足から熱が逃げていきます。

傷みの無い築20年の家 (100年健康住宅)



サーモカメラを見ると、エアコンを23°Cに設定し運転している時、1階床が温度ムラなく22°C前後に保たれているのが分かります。

高齢化社会到来！

(ヒートショックの無い家)

徹底比較

温度にムラのある住まいは

年齢を重ねるごとに冬場の足元の寒さは堪えるものです。断熱工事をすれば、夜中のお手洗いも入浴の前の『ウッ・・・』という脱衣時の寒さも減り楽になります。室内全体が均一に近づいた温度にすることで身体への負担を減らし血圧への影響を少なくし、すまいの腐れの問題も解決します。

断熱施工が悪いと築12年でも腐ります

●家が腐ると耐震基準は満たせません。(築12年ツーバーイフォー工法)



こうなっては手遅れ！

外観はきれいでも中は・・・断熱を確実にしないと壁は結露しすぐに腐ります。築12年の住まいをリフォームしようと壁内部をのぞいてみると・・・黒カビにより内部はボロボロに腐っていました。手遅れになる前の断熱診断により建物の性能UPと傷みの補修をし、健康で快適に過ごせる住宅にしましょう。



高度経済成長期(昭和56年5月末以前)に建築した住宅は、省エネルギー性・断熱性・耐震基準に適合していない可能性が大きいです。一度すまいの健康診断をしてみたいはいかがでしょうか？
無料にて相談・調査承ります。

快適な家・長持の家は断熱が重要！

断熱の方法によってこんなにも違うのです

屋根で断熱



室内の熱が屋根から逃げない為
雪がまんべんなく残っている。

天井で断熱



室内の熱が屋根から逃げている為
雪が降っている最中でも溶けている。

寒い冬も暑い夏も快適に暮らせるのは、どっち？

3日後も残っている



降ってる時から溶けている



断熱はとても重要です

家が長持するかどうか大きな影響を受けます。
きちんと確かめておきましょう